

授業科目名： 保健体育科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長岡邦子・高木由起子・野間基子 担当形態： クラス分け・単独
実務内容 (実務家教員の場合)	高等学校保健体育科教諭としての経験を活かして、中学校および高等学校保健体育科教諭としての資質・能力を高めるとともに学習指導案の作成について指導する。		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
「学位授与の方針」との DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自立的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標 1、保健体育科、「保健」の意義、目標と授業内容について説明ができる。 2、「保健」授業について、学習指導案作成のための、基本的な知識と多くの情報に目を向け、教材を選択し、よりよい保健の授業ができる。 3、様々な指導法があることを理解し、グループワーク、実験や実習について積極的に取り入れることができる。			
授業の概要 本授業では、レポートを提出する。レポートでは、中学、または高校の保健の教科書の中から単元(教材)を選択し、学習指導案を作成する。授業の流れや内容を指導案作成する事によって授業のイメージを持つことができる。そのために、スクーリングでは、保健の授業内容、様々な授業方法、アクティブラーニングの手法を用いての講義等を行い、その後、作成した指導案に沿って模擬授業を実施する。			
授業計画 第1回 保健体育教師として必要とされる「保健」の考え方 第2回 保健体育教師として必要な「保健」の学習内容 第3回 現代社会の健康課題を学習指導要領から読み取る① 第4回 現代社会の健康課題を学習指導要領から読み取る② 第5回 保健の授業の重要性と必要性 第6回 保健体育科、よりよい保健体育教師になるために 第7回 保健の授業展開のための教師の必要行動（情報機器及び教材の活用を含む） 第8回 単元計画と単元の評価規準についての理解 第9回 学習指導案作成についての理解 第10回 様々な授業方法についての理解（アクティブラーニング手法を含む） 第11回 保健の授業内容（情報機器及び教材の活用）の理解（感染症・医療制度等） 第12回 保健の授業内容（情報機器及び教材の活用）の理解（安全な生活・環境問題等） 第13回 学習指導案作成と模擬授業の実践 第14回 模擬授業の実践の振り返り 第15回 まとめ 科目修得試験			
スクーリングでの学修 スクーリングでは、教師に必要な資質や仕事内容、保健の授業について講義する。また、作成した指導案に沿って、模擬授業を行う。第5回～第15回の内容を包括的に扱う。			
テキスト 最新「中学校保健体育」（大修館書店）保体703 9784469663013 現代「高等保健体育」（大修館書店）保体701 9784469663198			
参考書・参考資料等 中学校-高等学校保健科教育法（東洋館出版社）森良一（編著）2020年発行 9784491039671			
スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）			